

特別展

「彫刻家エル・アナツイの 아프리카
—アートと文化をめぐる旅」

ガーナ生まれでナイジェリア在住のエル・アナツイは、現代アフリカを代表する彫刻家です。木の彫刻や廃品を使った織物の作品で知られています。本展では、アナツイの作品とその文化的な背景をなぞっていきます。
会期 12月7日(火)まで
会場 特別展示館

■関連イベント

「ギャブリートーク」
実施日 11月20日(土)
時間 11時～12時
場所 特別展示館

研究公演

「現代の音楽とアフリカ」
アフリカの同時代音楽はどのように生み出され、どう語られ、消費されているのでしょうか。ワークショップや公演を通して、近現代史の構造を浮き彫りにします。
実施日 11月23日(火・祝)
時間 13時30分～15時45分(開場13時)
場所 講堂(定員 450名)
※参加無料、申込不要

※入場整理券を10時から講堂入口にて配布いたします。
お問い合わせ(平日9時～17時)
広報企画室企画連携係
電話 06-6878-8210
※特別展関連のみんぱくセミナーは13ページをご覧ください。

企画展

「アジアの境界を越えて」

人間文化研究機構の連携研究「ユーラシアと日本」での議論をふまえ、東アジアの古代と近現代を対照して、境界やそれを越えることの意味を考えます。
会期 12月7日(火)まで
会場 本館展示場内(企画展示場A)

■関連イベント

「ギャブリートーク」
①実施日 11月13日(土)
時間 14時30分～15時30分
②実施日 11月23日(火・祝)
時間 14時～15時
場所 企画展示場A

※企画展関連のみんぱくウィークエンド・サロンは24ページをご覧ください。

国際シンポジウム

「希望社会への道—スウェーデンと日本におけるウェルビーイングの思想と市民社会」

少子高齢化・多元化する社会で、すべての人が「居場所」を得て、「ウェルビーイング」—心地よい生・安寧・幸福・希望—を感じて暮らすために、わたしたちは何ができるのでしょうか。高齢期の暮らし、雇用と社会保障に注目し、スウェーデンと日本の実践と課題を比較の視点から問い直します。
開催日 11月7日(日)
時間 14時～17時(開場13時30分)
場所 講堂(定員 450名)
※参加無料、申込不要
お問い合わせ
鈴木七美研究室
e-mail:ie@dc.minpaku.ac.jp
FAX 06-6878-75003

●アメリカ展示・オセアニア展示場の閉鎖
新しく生まれ変わるアメリカ・オセアニア展示場にこの期を待たないでください。
閉鎖期間 11月25日(木)～平成23年3月下旬予定

●無料観覧日のお知らせ

11月3日(水・祝)は文化の日、20日(土)、21日(日)は関西文化の日のため、本館展示・特別展を無料で観覧いただけます。ただし11月3日は、自然文化園を通行される場合入園料が必要です。

●11月1日から7日は教育・文化週間です
教育・文化週間は教育や文化への関心と理解を深め、充実・振興を図ることを目的として設定され、今年で52回目を迎えます。この機会に全国で開催されるさまざまな行事へ、ご家族ご友人と一緒にご参加ください。
(文部科学省ホームページ)
http://www.next.go.jp/a_menu/shougai/kyoiku-bunkai/

みんぱくラジオ「世界を語る」
みんぱくの研究者のお話をラジオでもお楽しみいただけます。
ラジオ大阪(1314kHz)
毎週水曜日 23時30分から24時
※詳細については、みんぱくホームページをご覧ください。

刊行物紹介

■西尾哲夫 著

『NHKカルチャーラジオ 文学の世界 アラビアンナイト—ファンタジーの源流を探る』



NHK出版 定価：900円
翻訳者や校訂者らがアラビアンナイトをどのように変形させていったかを確認しつつ、ファンタジーの源流として世界文学に多大な影響をあたえたアラビアンナイトの役割について、解き明かす。

■廣瀬浩二郎 編著

『万人のための点字力入門—さわる文字から、さわる文化へ』



生活書院 定価：2,310円
09年11月に民博で行なわれた点字に関する国際シンポジウムの報告書。「点字力」の広さと深さをわかりやすく解説する。点が創る新たな宇宙、点が拓く多様な生き方に出会うユニークな文化論。

■関 雄二 著

『アンデスの考古学 改訂版』
(世界の考古学 1)



同成社 定価：2,940円
本書は、アンデス考古学の概説書として1997年に出版された『アンデス考古学』を、この13年間の調査・研究の進展をふまえて、全面的に見直しをおこなった改訂版である。

みんぱくセミナー

会場 国立民族学博物館 講堂
時間 13時30分～15時(13時開場)
定員 450名(当日先着順)
参加費 無料(展示をご覧になる方は、観覧料が必要です。)

第390回 11月20日(土)

【特別展関連】

「アフリカの王様たちは今—ナイジェリアの政治と文化」
講師 松本尚之(横浜国立大学人間科学部准教授)



アフリカでは現在、王権をめぐめる様々な現象が起きています。近代国家と伝統王権が並び立つ状況があり、元来王制を持たなかった社会にも王が誕生しています。さらに王たちは、時には外国人をも首長に任命しています。この講演では、ナイジェリアのイボ社会を例に、今日のアフリカで王位や首長位が持つ意味を考えます。

第391回 12月18日(土)

「バルカン商人と羊飼い—民族国家を求めなかつたひとびと」
講師 新免光比呂(民族文化研究部准教授)



近代国家形成以前、バルカン半島には縦横に移動する人々がいました。その名はヴラヒあるいはサラカチヤン。彼らはもともと羊の牧畜を業としていましたが、やがてバルカン商人といわれる集団に加わります。そしてオスマン帝国とハプスブルク帝国の間をゆきまきし、莫大な富を蓄積しました。彼らは自分たちの民族国家をつくることにはこだわらず、それぞれ帰属する国家を拠点に活動しました。その知られざる暮らしと歴史をみてみましょう。

友の会

友の会講演会

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室
定員 96名(当日先着順、会員登録必須)

第390回 12月4日(土)

「マヤの暦について—2012年まであと1年」
講師 八杉佳穂(民族文化研究部教授)

時間 ●14時～15時30分

マヤの長期暦では2012年の暮れに大きな周期が終りを迎えます。世間ではそれが世界の終末思想と結びつけられているようですが、本当にこの世界は終わってしまうのでしょうか。複雑なマヤ暦を読み解きながら考えていきましょう。

第391回 2011年 1月8日(土)

「ことばの歴史・ひとの移動史」
講師 菊澤律子(民族文化研究部准教授)

時間 ●14時～15時30分

語族という言い方を耳にしますが、ことばが同じグループに属するとはどういうことなのでしょう。ことばの分類はなぜ、人の歴史と結びつくのでしょうか。「ことばの遺伝子」の分析と応用についてのお話です。

第392回 2011年 2月5日(土)

「日本におけるチベット研究のはじまり」
講師 青木文教のたつた道
講師 長野泰彦(民族文化研究部教授)

時間 ●14時～15時30分

第77回民族学研修の旅

台湾東部の原住民族を訪ねる

—パイワン族・ブマ族の村へ—

2011年3月10日(木)～13日(日) 3泊4日

原住民族が多く暮らす台湾東部を訪ね、パイワン族やブマ族の方々と交流します。原住民族文化のほか、日本とも関係の深い台湾の近現代史についても学びます。

※詳細は上記友の会までお問い合わせください。

国立民族学博物館
ミュージアム・ショップ

電話 06-6876-3112
FAX 06-6876-0875
e-mail shop@senri-f.or.jp
水曜日定休

ウェブサイトもご覧ください。
オンラインショップ
「World Wide Bazaar」
http://www.senri-f.or.jp/shop/

現在開催中の特別展「彫刻家エル・アナツイのアフリカ—アートと文化をめぐる旅」では、アフリカの現代芸術がおかれた現状を前向きにとらえなおし、現代アフリカを代表とする彫刻家エル・アナツイというアーティストの作品世界を美術史と文化人類学の双方の視点から語ろうとします。本展覧会の解説書では、エル・アナツイの作品とその背景だけにとどまらず、現代アフリカ美術をめぐるさまざまな問題を幅広くとり上げています。

特別展解説書

A Fateful Journey: Africa in the Works of El Anatsui
彫刻家 エル・アナツイのアフリカ

編集：
川口幸也、竹沢尚一郎、
松本尚之、水沢勉、朝木由香、
中村誠、渋谷拓
編集協力：
国立民族学博物館

発行：
読売新聞社、美術館連絡協議会

A4変形判235頁
(カラー125頁)
定価：2,240円
(友の会会員価格 2,016円)
発送手数料：400円

